

資料6 タンザニアにおけるプログラム援助の妥当性に係る検討

タンザニアにおけるプログラム援助の妥当性に係る検討

政府において、プロジェクトからプログラムへの移行は顕著であるが、そのスピードは省庁によって異なった。(バスケットに関しては、建前としてバスケット以外での援助も歓迎していたが、バスケットが進行している保健省では、話題の殆どがバスケットにつながった。) そのプログラム援助へのスピードやバスケットへの進行は、各省庁の行政能力と比例しているようで、比較的能力の高い大蔵省や保健省では早く、教育省、農業省、建設省では比較的遅いようであった。

この事実を『アフリカにおけるプログラム援助に関する基礎調査報告書』¹ 図 2-1 「プログラム援助とプロジェクト援助の課題ごとの適性比較」に照らし合わせると、以下の通りである。

図1、タンザニアにおけるプログラム援助とプロジェクト援助の適性比較

(○=適切、△=実施可能、×=不適切)

	プログラム援助	プロジェクト援助
(1) 政府能力	△~×*	△
(2) 政府のコミットメント	○~△	×
(3) 広範囲の貧困・開発問題	○	×
(4) ドナー協調体制の確立	○	○

ただし、政府能力(1)*については、以上の通り、省庁によって能力が異なり、省庁によってその能力を検討する必要がある。所見では、大蔵省、保健省では実施可能であるように見受けられるが、より明確な判断が必要である。例えば、省庁の優先分野の明確・同意以外に、財政及び活動の Performance Monitoring の有無及び質が判断基準となるかもしれない。政府のコミットメント(2)に関しては、図 2-1 において、右下がりになると思われる(同じ政府でもプログラムへのコミットメントの方が、プロジェクトへのコミットメントより強い)。他の課題に関しては、サブサハラ諸国における適性比較と同様となる。

¹ 国際開発センター『アフリカにおけるプログラム援助に関する基礎調査報告書』2000年2月、P.20。P.26には、表2-2において「サブサハラ諸国におけるプログラム援助とプロジェクト援助の適性比較」が行われているが、ここでは、タンザニアにおける適性比較を行う。